

とても

リスクの高い

運用商品の

見分け方、つきあい方

高いリスクを受け入れなければ、高いリターンを得ることはできないのは、投資の原則です。しかし、高すぎるリスクと無理をしてつきあう必要はありません。今回は、とてもリスクが高い運用商品の見分け方・つきあい方について考えてみたいと思います。

**運用商品には  
いろいろあるけれど…**

資産運用というと、とても危険なことをしている人が多いようです。確かにリスクを取って資産運用をすると、元本割れする可能性が生じます。投資信託や株式などはその一例です。

とはいえ、一口に「元本割れリスク」

といっても、いろいろな大きさがあることはご存じですか？ 年間で数%程度の元本割れしかないと考えられる商品もあれば、年間30%程度の元本割れがありうる商品もあるのです。これらは株式や債券など投資する対象によって異なってきますし、運用の方法によっても異なります。

資産運用の基本としては「高いリターンを得たければ高いリスクを受

け入れなければならない」というものがあります。いわゆる「ハイリスク・ハイリターン」というものです。しかし、高いリスクを取れば必ず高いリターンが得られるわけではありません。実際には高いリスクを取ると元本割れの可能性や程度も大きくなります。たとえば、株式運用は、大きく値上がりする可能性があるものの、

やはり大きく値下がりする可能性

もあるわけです。「ハイリスク⇩ハイリターン」ではなく、「ハイリスク⇩ハイリターン」であることはしっかりと覚えておきましょう。

ところで、「高いリスク」といっても、30%どころか、資産の全額を損失する可能性がある運用方法もあるのです。こうした、きわめて高いリスクを取る資産運用については、あらかじめ

リスクの大きさをきちんと把握

●執筆者  
ファイナンシャルプランナー、  
消費生活アドバイザー

山崎 俊輔

やまさき・しゅんすけ  
ファイナンシャル・ウィズダム代表。  
企業年金研究所、FP総研を経て  
独立。商工会議所年金教育センタ  
ー主任研究員、企業年金連合会調  
査役(確定拠出年金担当)など歴任。  
インターネット、雑誌、講演等を通じ、  
若年層のライフプラン・投資教育  
に取り組んでいる。1972年生まれ。

したうえで、投資をするかどうか検討することがとても大切です。今回は「とてもリスクの高い」運用商品とのつきあい方について考えてみたいと思います。

## 「高いリスク」の商品には こんな種類がある！

それでは、どのような商品が、とても「高いリスク」がある商品といえるでしょうか。一つの商品が複数の性格を持っている場合も多いので、ここではその性格でいくつか分類してみたいと思います。

### 1 投資対象が「投機的」な 値動きをするもの

運用商品の投資する先が、そもそも投機的な値動きをするものとは、「投機的な値動き」とは、簡単にいうと、予想が困難で値動きがとても大きいことです。賭けの要素が混じっていて大当たりする人と大損する人が出るようなものも「投機的」といわれます。たとえば、同じ投資信託であっても、一般的な株式や債券を運用対象とするものと比べ、穀物やエネルギー等の資源価格を対象としていたりするものは値動きの幅が大きくなります。

ちです。これは、穀物やエネルギーの値動きそのものが、景気や気候とその見通しに大きく影響される仕組みだからです。

また、為替相場の変動が影響する商品は、値動きが投機的になりやすく、大きく上下動することになります。これは、為替相場が、その時点での二国間の貨幣価値の換算比率を表しており、常に多岐多様な要因によって変化し続けているためです。

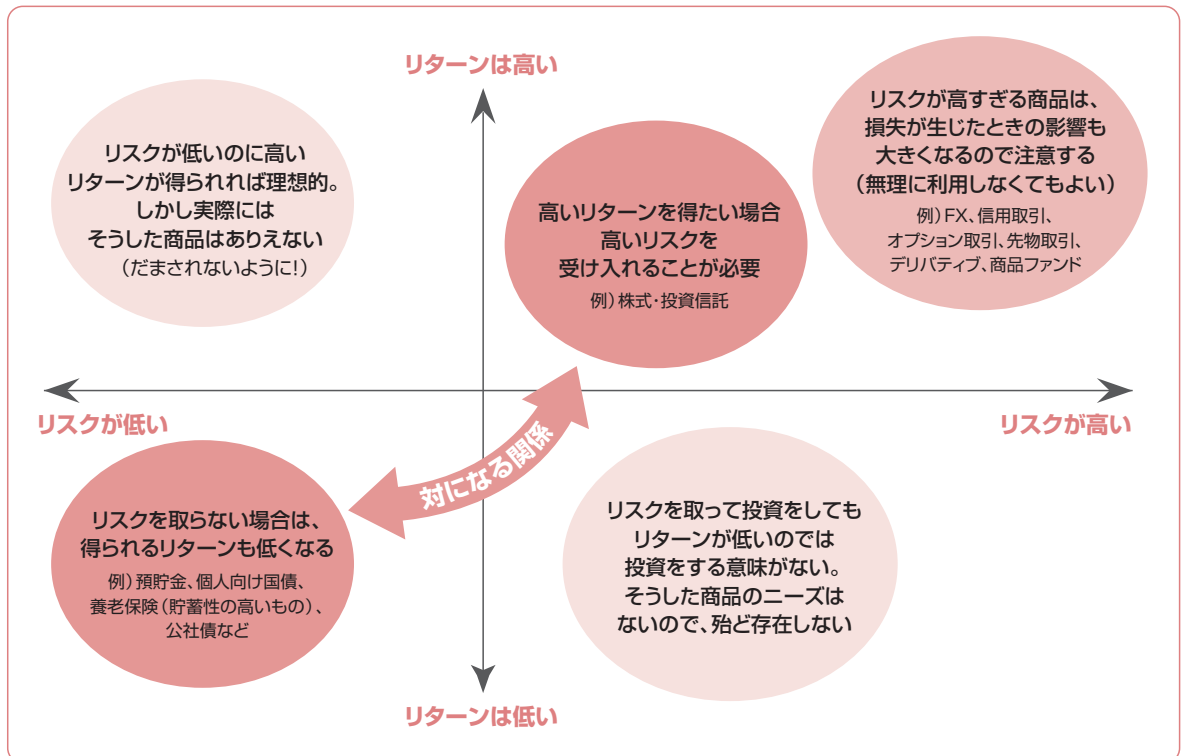
そのほか、同じ「投資信託」という商品でも、運用方針によってリスクの度合いは大きく異なります。たとえば、アクティブ運用と呼ばれる運用方針を採用している場合、マーケットの全体の平均的な値動きよりも、大きな値動きをする特性があります。

※アクティブ運用とは

ファンドマネージャーがマーケット全体の平均的な動き（TOPIXや日経平均株価指数などのインデックスの動きを上回るリターンを目指して、独自に投資対象銘柄、投資金額を決定して運用を行うもの

### 2 預ける資金の何倍もの 投資ができるもの

最近、一般の人が「外為証拠金取引（FX取引）」を行っている例があります。これは、顧客が預けた資金



の何倍もの取引ができることが特徴で、このような取引方法を専門用語では「レバレッジをかける」と言います。レバレッジとは「てこ」を意味しており、小さな力で大きな効果が出せることを指しているのです。

ここで重要なのは、良い効果も大きく出ますが、悪い効果も大きく出るといことです。

たとえば外為証拠金取引においては、元手の10倍、100倍などといった取引が可能の場合があります(注)。100倍の場合、わずか10万円の手持ち資金があれば1000万円の取引ができることになり、手持ち資金がわずかでも高額な売買ができるということですから、一見すると大チャンスのように思えます。しかし、その分リスクも高まっていることを忘れてしまいがちです。

仮にこの取引で、為替が10%円高に動いたら資産の価値も10%下がったことになるのですが、取引は1000万円分していますからその10%で損失は100万円です。当初用意した資金(10万円)から比べると、なんと90万円の赤字です。つまり、1000倍のレバレッジをかけた取引では、価格低下(10%)の影響も100倍になって返ってくるのです。

投資の初心者には、こうしたレバレッジを無理にかけける必要はありません。(注)最近金融庁では外為証拠金取引についてこの倍率(証拠金倍率)を25倍までに制限する規制を検討中です(21年6月現在)。

### 3 損失が無制限に拡大するおそれがあるもの

さらに、投資のやり方によっては、損失が無制限に拡大する可能性があるものもあり、これも注意が必要です。

たとえば、株式の信用取引においては、「買って、売る」だけではなく、「売って、買う」という売買ができません。実際には株を持っていなくても、株の権利を売ったことになって後日買い戻し、差額を精算するような仕組みです。株価が下がり続けているときも、利益を出せる仕組みとしてはしばしば紹介されます。

たとえば、10万円の株を1株売ったことになって、後日買い戻す取引を行うとします。このとき、株価が8万円に下がったときに買い戻すことにすれば、差額の2万円が利益になります。便利な仕組みのようですが、逆に株価が上がると損失がどんどん広がってしまいます。株価がもし20万円になれば10万円の損ですし、株価が100万円になれば90万円の損ということになります(実際には、一定の損失が生じた段階で強制的

に損失確定されます)。

株式のほかにも、先物取引やオプション取引、外為証拠金取引などでも似たような取引が可能ですが、初心者が興味本位で運用するにはたいへん危険だということを知っておく必要があります。

### 4 一定の条件で、資産を全額損する可能性があるもの

ある条件を満たせなかった場合、投じた資産をすべて失うような仕組みになっているものもあります。これもとても高いリスクがある商品といえます。

仕立てた「カバードワラント」という仕組みのオプション取引があります。これは、一定期間内にある条件が満たされなかった場合には、資産の全額を失う条件が設定されています。上手に利益が得られる可能性がある一方、全額を失う可能性もあるわけですから。

こうした仕組み商品は、必ずしも商品名に「カバードワラント」と分りやすく標記されておらず、商品の仕組みをよくよくみると、そうした条件が付いているといった場合もあります。なんだか複雑で判りにくい仕組みの商品だなあと、思ったなら、こうしたとても高いリスクがある可能性が

大です。気をつけましょう。

**とてもリスクの高い運用商品とどうつきあう?**

さて、こうした「とてもリスクの高い」運用商品が存在してはいけない、ということではありません。また、販売する業者が直ちに悪質であるとまではいえません。いろいろな人の様々なニーズに応える形で、多種多様なリスクをもつ商品が提供されているからです(もちろん、リスクの度合いを隠して勧誘するような、悪質な販売をする業者もありますので、注意は必要です)。

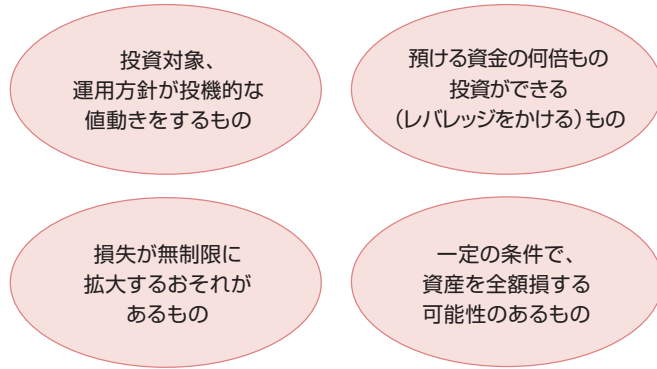
しかし、自分にとって不要なリスクを取ってまで資産運用を行う必要はありません。「私は高いリスクの商品を利用したくない」、と考える場合、どのようにして対処すればいいでしょうか。

### 1 商品のしくみや条件をしっかりと確認

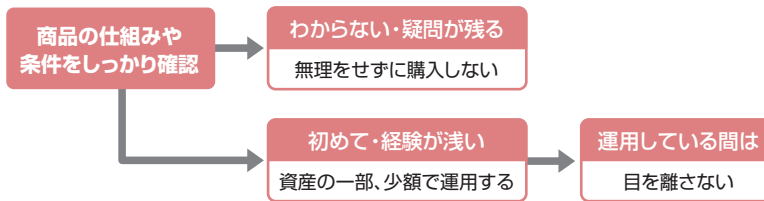
まず、運用商品の仕組みや条件については必ずチェックすることから始めましょう。営業マンのセールストークを鵜のみにしてはいけません。特にどのような運用が行われる商品な

# とてもリスクの高い運用商品の見分け方、つきあい方

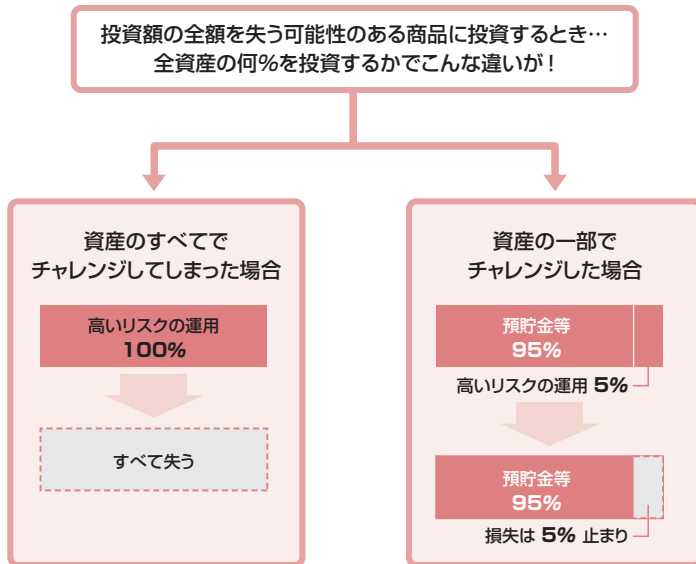
## ● リスクがとても大きい商品の特徴



## ● リスクがとても大きい商品とのつきあい方



## ● 少額でチャレンジすれば、ダメージも小さくなる



のか解約の条件はどうなっているか(ペナルティはあるか)、どのようなリスクがあるのか(特に元本割れの可能性はどのようなどきにどの程度あるか)、についてはパンフレットを確認してください。パンフレットについては、最後のページに書かれているような小さな文字や表の部分にも目を

通してください。不明な点は口頭で確認を求めてください。  
このとき、運用のしくみが理解できない商品については、絶対に購入をしてはいけません。「プロに任せるのだから……」といった安易な気持ちで購入しても、損失が生じたときは自らが負うことになるだけです。

複雑な仕組みの商品だからといって、必ず儲かるわけではありませんので、注意してください。また、説明を求めても納得のいく回答が得られない業者についても契約をしてはいけません。  
このとき、「もしかしたら儲かるかもしれない……」という商品を見送る

ことがもつたないと思うことがありますが(セールストークでは、私たちのこうした葛藤に上手に入り込んでくれます)。もし悩んだ場合は、「買わない」という選択肢により、大損する可能性を堅実に回避したのだ、と自分に言い聞かせてください。「無理をして買わない」というのも資産運用に



おける重要な選択のひとつです。そして、私たちが自分で選ぶことのできる賢明な判断のひとつと考えてみてください。

## 2 チャレンジするときは 少額から

それでも、どうしてもチャレンジしてみたい、と思う人は「資産の一部分でチャレンジ」するにとどめておきましょう。なぜなら、購入金額を控えることで、リスクの度合いを自分で抑えることができるからです。

一般に、リスクが高い商品ほど、あなたの保有している全資産に占める購入比率は低くすることが望ましいといえます。仮に年間で50%下がる可能性がある商品の購入をするとしても、このとき全資産の80%にあたる金額を投資して、その分の価格が50%値下がりましたとすれば、資産全体でもマイナス40%の大打撃になります。ところが、全資産の20%しかその商品を購入しなければ、購入分の価値が半減しても、資産全体では10%の損失で食い止めることができるわけです。投資した資産をすべて失うおそれのある10倍のFXであっても、全資産の5%でチャレンジする程度なら、当然資産全体では5%の損失でと

どまります。

私たちはつい、大もうけのチャンスに目がくらんで、資産のほとんどをリスクの高い商品につき込んでしまいがちです。しかし、購入を控えるにすぎない理性が残っていれば、大きな損失を食い止めることはできるのです。自分の気持ちを上手に抑えてみてください。

## 3 チャレンジしたら 目は離さない

また、あえて高いリスクのある運用をする場合には、その値動きから目を離さないようにしましょう。たとえば、為替の市場は24時間世界中で動き続けています。自分は連休だからと3〜4日、まったくノーチェックであった間に、大きく円高に振れたりすると、それだけで運用資産を失ってしまうことすらあります。リスクの高い運用をする限りは自分の運用状況のチェックは怠らないようにしましょう。

「そんな運用はできないよ」と思うのであれば、そういう商品を購入しなければいけません。

逆にいえば、「こうしたとても高いリスク」の商品を避けて運用方針を選択すれば、ゆったりかまえた資産運用も可能、ということなのです。

## 「私のリスクとの つきあい方」を しっかり考えよう

さて、高いリスクの商品を避ける方法についていくつか紹介してきましたが、リスクがあることは必ずしも悪いことではありませんので誤解のないようにしてください。リスクとチャレンジは活力ある社会の発展に必要なものだからです。

個人の資産運用においても、ある程度のリスクを取った資産運用を行うことで、中長期的には上手な資産形成が実現できる可能性が高いといえます。しかし、個々人の運用において、とても高いリスクを取る必要は必ずしもありません。日々の生活と、毎日の仕事が私たちにとっては重要であり、これを脅かすような高いリスクを資産運用で取る必要はないからです。

リスクを一定程度に抑えつつ、リスクと上手につきあう運用方法としては、資産の過半は預貯金等で安全に確保しつつ、一部分のみリスクにチャレンジすることが大切です。株式市場全体の値動きに連動する程度のリスクを取るインデックス運用の株式投資信託や個人向け国債を活用すれば、少額から購入できますし、損失割合も一定程度で収まります。

毎月コツコツと積み立てていくような投資（積立投資信託など）もいいでしょう。いずれにしても、無理のない範囲でじっくりと運用を行うことが大切です。

「短期で、簡単に、確実にお金を増やしたい」と思うのは誰でも考えることです。しかし、運用はそう簡単なものではありません。「私はリスクとどうやってつきあうか」、皆さんも一度じっくり考えてみてください。

## コラム だまされないことにも注意

複雑な金融商品の仕組みを巧みに説明し、それがあたかも確実な収益機会の可能性につながるかのように誤解させ、お金を集める悪質な業者もいます。業者によっては預かったお金を実際の運用に回していないところもありますので要注意です。

こうした悪質業者を避けるためには、業者の活動について営業マン以外の人の評判を調べるといいでしょう。悪質な業者については国民生活センターのホームページなどで事例が紹介されています。

また、高いリターン（たとえば月利10%以上）と安全確実（元本の保証）を同時にうたうような金融商品をセールスされた場合は、疑わしいと思ってほぼ間違いありません。過度に「安心」、「儲かる」と訴えるセールスには気をつけてください。